



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第3回 「米国大統領選挙」

● 今年は米国大統領選挙の年です。先週1月15日にアイオワ州で野党 共和党の予備選挙が実施され、トランプ前大統領が得票数で2位以下の候補に大差をつけて圧勝しました。今週は米国の政党や大統領選挙についてお伝えします。

< 民主党と共和党 >

● 米国の政治は民主党と共和党の2大政党制です。

● それぞれの党の基本的な政策思想、支持層などを見ていきましょう。

< 民主党 >

● 現在のバイデン大統領を擁する与党 民主党は、1828年にアンドリュー・ジャクソン（第7代米国大統領）の支持者によって設立されました。党のイメージカラーは「青」、党のシンボルは「ロバ」です。民主党の基本的な政策思想は、平等主義を志向し、政府の役割を重視する「大きな政府」を目指すことです。また、環境問題への対応やLGBTの権利擁護、同性婚の容認や女性権利として中絶を容認するなど進歩的な政策を標榜しています。支持層は東海岸、西海岸など大都市の市民、若年層、労働団体、また、黒人やヒスパニック、アジア系などのマイノリティです。産業で見ると、IT業界などニューエコノミーや各産業の労働団体、ハリウッド映画産業などのエンターテインメント業界などから支持されています。

< 共和党 >

● 次に、前大統領トランプ氏を擁する野党 共和党は、1854年に南部の奴隷制度に反対する北部の運動の連合体として結党されました。奴隷解放で有名なエイブラハム・リンカーンが共和党最初の大統領となりました。党のイメージカラーは「赤」、党のシンボルは「ゾウ」です。

● 共和党の基本的な政策思想は、自由市場や資本主義の擁護、民営化や規制緩和の推進、減税など「小さな政府」を目指すことです。支持層は、農村部、白人男性、福音派キリスト教徒などです。産業で見ると、鉄鋼業、石油産業、軍需産業などオールドエコノミーに属する産業などから支持されています。ただ、2016年の大統領選挙に当選したトランプ大統領により、「Make America Grate Again」（米国を再び偉大に）のスローガンで「米国至上主義」を鮮明にし、関税強化など保護主義的な貿易政策や移民の制限、妊娠中絶の禁止など保守的な傾向を強めました。

<米国大統領選挙と金融市場>

米国の大統領選挙は民主、共和両党の大統領候補が、米国経済、外交、宗教、移民政策などについて論戦を繰り広げます。この論戦が株式市場など金融市場に大きな影響を与えます。

例えば、移民政策について、海外からの移民の受け入れ制限を厳格に行うということになれば、労働力不足が深刻になり賃金が高騰することになり、やっと沈静化してきたインフレ状況が再び高進するリスクが高まることが予想されます。また、支持してくれる産業に有利な施策を打ち出し、成長戦略とすることもあるでしょう。投資家はこれらを先読みして投資行動を行います。そのために選挙情勢によって市場動向が左右される場合が多いのです。大統領選挙や中間選挙の年は、経済動向のみならず選挙情勢にも目配りしながらの投資判断となるため、市場は乱高下しやすくなります。

今回の大統領選挙では、共和党候補は前大統領のトランプ氏と元国連大使のニッキー・ヘイリー氏に絞り込まれました（1月23日現在）。3月5日の予備選挙が多く開催されるスーパーチューズデーで早々とトランプ氏が共和党候補となるのでしょうか？トランプ氏が大統領候補になった2016年は英国のEU離脱などもあり、米国をはじめとする金融市場は大きく揺れ動きましたが、トランプ氏が当選した後は年末にかけて上昇しました。

米国株式市場が先週から堅調な動きとなってきました。トランプ氏の予備選での圧勝も影響していると思います。

2016年の再来になるのか米国株式市場の今後の動きに注目です。